

第22回 臨時休業中の私とこれからの私 その1

～ 3年生 KUの課題から ～

3月以降、約3ヶ月の臨時休業を経て、6月から徐々にではありますが、学校が再開しました。このタイミングで、3年生に次のような課題が出されました。

これほど長いこと、学校という場所に行かなかった時期もなかったでしょう。インターネットを見ればさまざまな情報に溢れ、振り回されそうになります。さらに、自分の状況と他の人との状況を比較することもできず、君たちの心身は非常に疲弊したのではないのでしょうか。しかし、その中で「自分」というものを見つめ直したり、自分の「将来」について考えたことも多々あったはずで、KU（光陵ユニバース/総合的な学習の時間）は探究的な学びを行うものです。出口が見えてきた今、この学習活動では、そんな君たちの思いであったり、今後どのように生活をしていくか、社会に出たときにこの臨時休業をどう糧にしていくかなどを”探究”してみてください。この状況になって、自分を見つめ直した結果、自分のキャリアに大きく影響する考えに至った人もいるかもしれません。その経過、きっかけなども記入しておくといいですね。そして、これを「ポートフォリオ」にし、後々に振り返る一助としてください。

提出された生徒たちの記述をいくつか紹介したいと思います。生徒たちは、困難な状況に直面しながらも、しっかりと自分自身と向き合い、今の自分の思いを表現してくれました。

○ C. K.

私はこの休校期間で発見したこと、言い換えるとコロナ休校が気づかせてくれたことがあります。まず一番は健康であることはとても幸せだということです。このコロナウイルスによって世界規模で考えると、何百万もの人が苦しみ、何十万もの人が亡くなりました。テレビや新聞でコロナのニュースを聞くたびにとても不安になり、自分や家族の体調を気にかけるようになりました。世の中の誰が感染していてもおかしくない状況で身の周りの人が元気で健康であることはとても幸いなことだと感じました。

私の生活面でいうと、やはり学校や友達、先生の存在の大切さに気づきました。話したいことがあっても簡単には話せない、聞きたいこと質問したいことがあっても繋がりがづらいという状況はたとえ家族が家にいても孤独感を抱きます。毎日学校に行くことによってどれほど楽しく高校生活を送っていたか、ストレスなく過ごしていたかを実感しました。私が将来学校の教員になって生徒たちに話をするときはこのコロナ休校期間で感じた学校の意義を伝えたいと思いました。

また、家にいる時間が増えたため、普段母がしている家事も手伝うようになりました。夕ご飯の支度や片付け、洗濯物など仕事から帰ってきて毎日やってくれていたと思うと感謝の言葉をかけずにはられません。その苦勞がわかった今は母がやってくれるということを当たり前を考えないで弟と2人で仕事を割り振って手伝うようにしました。

そして最後に、手洗いうがい、咳エチケットなど、自分や相手を守るためにする行動を忠実に守っている日本人は素晴らしいと誇りに思っています。この習慣は何十年経ってもこのコロナ禍を生きた私たちは伝えていかなければなりません。またいつ感染症が流行っても対処できるよう継続していきたいです。

○ M. U.

今まで看護師になるという夢は、私にとって言葉通り“夢”でしかなかったように思う。自分の記憶にないほどの幼い時から今現在に至るまで看護師の仕事に憧れを抱き続けてきたが、なぜ看護師になりたいのか、また看護師になって何がしたいか、など考えたことはなかった。ところが大学も具体的な名前を挙げて考えるようになり、夢だったものが現実味を帯びて目の前に迫ってきた。そしてこのコロナウイルスの蔓延という状況下で、自分の命を危険に晒すかもしれないという、この仕事の過酷さ、必死に働いても誹謗中傷を受けることもあるという現実を目の当たりにした。憧れだけでは務まらない仕事であると思い知り、自分にそんな仕事ができるか正直不安になった。そんな時ある本を読んだ。主人公の天才医師と正体不明の疫病との戦いを描いた、2年前に日本医療小説大賞を取った本で、今まで読んでいないままだった。その主人公の疫病を恐れつつも懸命に患者を救おうとしたり、医療が人々にとってどのような存在であるべきかについて苦悩する姿に心打たれ、そして気がついた。きっと今現場にいる医療従事者の方も恐怖や葛藤を抱えながら戦っているに違いない。このような状況になった時、将来自分はどうするかなど、簡単に決められることではないのだ。大切なことは困難に直面した時、恐れないことではなく、恐れながら、悩みながら、それと向き合っていくということだと気づいた。今私たちは誰もが困難の中にいる。部活の引退試合はなくなり、行事も中止。授業を受けることができず受験への心配が募る。そんな中で私ができることは、再開を信じ、部活の練習を諦めないこと、勉強に励み、必要な知識を蓄えることだ。医療に関する記事を読んでまとめたり、自分の考えを書くノートも始めた。ありえないがありえる中で、これからの私を予想することなどできない。だが今の状況、今の私と向き合い、やるべきことをこなしていくことが、これからの私を形作るはずだ。

○ M. E.

この臨時休業は、私にとっては意味のあるものになった。もちろん、学校の授業の進度や成績、受験のことで不安は大きかったが、多くの時間を勉強に費やすことができると思うことでこの休みを前向きに促えた。そして、様々なことを考えた。自分のこと、勉強のこと、将来のことについて。一時期、勉強をする気はあるのに全く集中出来なかったり、行き詰ってしまったり、情緒不安定になったこともあった。先程述べた通り、休みを前向きに捉えていたので、外出出来ないことが原因でそのようになったという訳ではない。だが、Google classroom のアンケートで、私と同じような人がいて、自分だけではないのだと知り安心したし、励みにもなった。受験については、今まではこれといって絶対に行きたいと思うような学校がなく、とりあえず高い目標を立てて勉強を頑張ってきた。だが、ついに行きたいと思えるような学校を見つけた。明確な目標ができたので、その学校、学部に入れるように、より一層勉強に励んでいきたい。

また、ある本と出会った。今までは、本を読むことが大事だとは分かっていたものの、KSTの勉強や塾でなかなか読む時間がなくて、全然読んでいなかった。これからは特に勉強をしなければならない時期だが、興味深い題名の本を家の中で見つけてしまった。読み始めてみると面白く、気付けば全部読み終わっていた。集中して一気に一冊を読み終えてしまうことがなかったので、読み終わったときは嬉しく思ったのと同時に、本を読むことの楽しさ、面白さ、重要さに改めて気付かされた。受験が終わったら、将来のためになる多くの本を読み、そこで学んだ知識を自分のものにしていきたい。